第９学年Ａ組・Ｂ組　道徳科学習指導案

（中学３年）

授業者　宮　崎　恭　輔
明　石　琉　介

（場所　２階ホール）

１　主題名　共に生きる　Ｂ－９　相互理解、寛容

２　ねらいと教材

(1) ねらい

異なる個性をもつ他者との関わりについて、教材を基に考えたり、自分たちの生活を振り返ったりすることを通して、互いの違いを認め合うだけでなく、その違いによって自分にはなかった発見や新たな価値が生まれることに気付かせ、他者を尊重しながら自己を高めようとする態度を育てる。

(2) 教材名

ソーシャル・ビュー　－見えない人と楽しむ美術鑑賞（光村図書）

３　主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方

中学生は、自分と考え方や興味・関心が似ている仲間との関わりを求めるがゆえに、自分とは異なる考え方や感じ方をする人との関わりに難しさを感じたり、距離を置いたりすることがある。しかし、人はそれぞれ異なるものの見方や考え方をもっている。だからこそ、他者との関わりを通して、自分には無かった見方や考え方に触れ、自分自身の視野を広げていくことが大切である。相互理解とは、単に相手との違いを認めたり、自分の考えを相手に合わせたりすることではない。互いの違いを知る中で、自分の視野の狭さに気付き、他者から謙虚に学びながら自らを高めていこうとする態度を育てていくことが必要である。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

生徒たちは教材と真摯に向き合い、活発に意見を交換しながら考えを深めようとしている。また、話合いの際には、教材と自分のこれまでの経験や考え方を重ねながら、道徳的価値を自分との関わりで捉えようとする姿が見られる。

生徒 10 名のうち、４名が転入生であり、これまでの生活経験や興味・関心、得意・不得意なども個人差がある。生徒たちは互いの違いを認めながら生活している一方で、考え方や感じ方の違いから、相手に対してもやもやしたり、分かり合うことの難しさを感じたりすることもある。そこで本時では、自分にはない見方をもつ他者と関わることは、新たな気付きにつながることを実感させたい。そして、異なる他者と学び合いながら生きていくことの意味について、考えを深めさせたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、視覚障害のある白鳥建二さんが行っている、目の見える人と見えない人が一緒に美術作品を鑑賞する活動に参加した作者が、同じ作品を見ても人によって捉えているものが異なることや、互いの見方を伝え合うことで、一人では得られなかった気付きが生まれるということを実感するという内容である。本時ではまず、事前アンケート結果とソーシャル・ビューの活動を比較し、「異なる人同士が一緒に活動すると面倒なこともある。それなのになぜ『ソーシャル・ビュー』は成立するのだろう」と問う。そこで、個性の異なる他者と関わることには難しさもある反面、その存在が自分に学びを与えたり、新たな価値を生み出したりすることに気付かせたい。さらに、自分の生活と重ね合わせることで、他者と関わる意義について考えさせたい。本時を通して、異なる他者との関わりを敬遠するのではなく、関わりを通して他者を尊重し、自己を高めようとする態度を育てたい。

4　学習指導過程

段階	学習活動 （○主な発問◎主発問・予想される反応）	形態	教師の支援
導入 8分	1　事前アンケートの結果を共有する。 Q：様々な人と分かりあうことは大切だ。 Q：人との違いにぶつかり、悩んだりもやもやしたりした経験がある。	全体	・理想とする考え方と現時点での自分とのずれに気付くことができるよう、事前アンケートを実施し、その結果を共有する。
	2　「共生」という言葉から、違いと共に生きていくことについて課題意識をもつ。	全体	・課題意識を引き出すことができるよう「共生」という言葉を紹介し、辞書上の意味を確認する。
	3　学習問題をつかむ。 「共に生きる」とは、どういうことだろう。		
展開 27分	4　教材を基に、「共生」の在り方について話し合う。 ○異なる人同士が一緒に活動すると、面倒なこともある。それなのになぜ「ソーシャル・ビュー」は成立するのだろう。 ・互いに意見を出し合ったり、質問を投げかけたりしているから。 ・違う意見が交流しているから、新しい見方が生まれる。	個 ↓ グループ ↓ 全体	・日常の人間関係と重ねて考えることができるよう、活動1に立ち返り、「自分と考え方や感じ方が違う人と関わるのは、面倒なことではないか」などと投げかけた上で、発問につなげる。 ・互いが関わり合うことの大切さに気付けるよう、「見える人が絵の説明をするだけで成立するのではないか」と問う。
	5　自分の経験に置き換えて考える。 ◎他者との関わりの中で、自分にはなかった気付きや考えが得られた経験はないだろうか。 ・体育祭の応援合戦で、自分のA案と友達のB案でぶつかっていたけれど、話し合う中で、新しいC案ができた。	個 ↓ 全体	・多様な個性や立場があるからこそ新たな価値が生まれることに気付くことができるよう、教材を基に自分の経験に検索をかける。 ・考えがまとまらない等、困っている生徒がいる場合は、担当教師が側で助言をする。
終末 15分	6　本時の学びを振り返る。 ○本時の学習問題に対する自分なりの考えについて、「共生」という文字を自分なりの「色と形」で表して、説明しよう。 （説明の例） 今までは人との違いに悩むことがあったが、違いがあるからこそ新しい発見があったり、成長できたりするのだと思った。 互いに意見を伝え合うことで、相手とよりよい関係を築いていきたい。	個 ↓ 全体	・多様な考えを引き出せるよう、生徒の発言に問い返しながら、色や形の意図を詳しく説明させる。 ・他者の考えに触れ、自分の考えを補完できるよう、「色と形」をロイロノートで提出させ、全体で共有する。 【評価】異なる個性をもつ他者との関わりについて、互いの違いを認め合うだけでなく、その違いによって自分には無かった発見や新たな価値が生まれることに気付き、互いを尊重しながら自らを高めようとしている。 （観察、シート）